



入坑を前に「ゼロ災害よし！」と唱和する新藤副大臣  
(手前中央)

## 石炭産業

# 高度化事業継続前向き

## 新藤副大臣、KCMを視察

新藤義孝経済産業副大臣が26日、釧路コールドマイン(KCM・中島太郎社長)を視察し、産炭国石炭産業高度化事業の2009年度予算確保を約束するとともに、それ以降の継続についても「必要性は十二分に感じた。単年度の実績を積み上げることが重要」と前向きな姿勢を示した。一方、国際的なエネルギー価格の高騰に伴う国の石炭政策転換の可能性については「国内炭についての国の方向性は出ている。それに沿った形で、市場性を見据えた民間、コールドマインに期待したい」と述べるにとどまった。

新藤副大臣は昨年12月に、KCMが技術提供しているベトナムマオケー石炭などを視察。冒頭、同高度化事業の重要性を認識した上で、「日本の強みを実践していると高く評価している。現場の心意気や掘削技術、安全管理をこの目で見たい」と視察の趣旨を説明した。その後、人車で坑道内に入って、推進300メートル付近の掘削現場を見学したほか、この日はKCMのほか、釧路市鶴野の水産加工機器メーカー「ニッコ」も訪れ、同社が誇る技術の数々も視察。佐藤厚社長の解説を聞きながら、「ぜひ海外に展開してほしい。そのビジネスチャンスを作るのにわれわれを使って」と同社の海外展開のバックアップを約束した。

(岸上渉)